Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-06-18

Relationship between activities of daily living and readmission within 90 days in hospitalized elderly patients with heart failure

Kitamura, Masahiro

(Degree)
博士（保健学）

(Date of Degree)
2018-03-25

(Date of Publication)
2019-03-01

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第7173号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007173

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（様式３）

論文内容の要旨

専攻領域　国際保健学

専攻分野　国際保健協力活動

氏　　名　北村　匡大

論文題目

Relationship between activities of daily living and readmission within 90 days in hospitalized elderly patients with heart failure
（入院高齢心不全患者におけるADLと90日以内再入院の関連性）

論文内容の要旨

目的:入院高齢心不全患者を対象としADLと90日以内再入院の関連性ならびに再入院防止のためのADLカットオフ値を検討することとした。
方法：対象者は、2012年5月～2016年5月の間、急性期病院1施設にてリハビリテーションを受けた連続心不全患者589名中、取り込み基準（65歳以上、初回入院、入院前に歩行が可能な者）と除外基準（ペースメーカー手術者、転科・死亡例、非自宅退院、フォローアップ困難）を満たした者とした。私たちは、基本属性、医学的属性、ADL(motor-Functional Independence Measure; m-FIM)、再入院日等を調査した。統計学的手法として、90日以内再入院群と非再入院群の2群へ分類し、患者特性の比較をt検定及びX2検定にて行い、コックス比例ハザードモデルにて再入院因子の検討を、受信者動作特性曲線よりカットオフ値の算出を、カプランマイヤー法を用いて再入院率の比較を行った。
結果：589名中113名が最終対象者であった。非再入院群(90名)と再入院群（23名）は、年齢、Body mass index(BMI)、NYHA、ヘモグロビン、motor-FIM、に有意差を認めた($p<0.05$)。再入院因子として、BMI（hazard ratio [HR]: 0.87; $p<0.05$）とmotor-FIM（HR: 0.94; $p<0.01$）が抽出された。motor-FIMカットオフ値は74.5点（曲線下面積=0.78; $p<0.001$）を示した。motor-FIMカットオフ値を基に分類した2群の再入院率は有意な差を認めた($p<0.001$)。
結論：入院高齢心不全患者におけるmotor-FIMは90日以内再入院の独立した予測因子であり、motor-FIMカットオフ値は再入院防止の一指標となり得る可能性がある。

指導教員氏名：井澤　和大　准教授

（別紙１）

論文審査の結果の要旨

氏　名	北村　匡大		
論文題目	Relationship between activities of daily living and readmission within 90 days in hospitalized elderly patients with heart failure （入院高齢心不全患者におけるADLと90日以内再入院の関連性） （外国語の場合は，その和訳を併記すること。）		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	准教授	井澤　和大
	副　査	教授	中澤　港
	副　査	教授	宮脇　郁子
	副　査		印

要　旨

本研究は、近年、国内外において、急増している高齢心不全患者の90日以内再入院と日常生活活動　(Activities of Daily Living: ADL)との関連性、および再入院を予測するためのADLカットオフ値について明らかにしたものである。北村氏は、基本属性、医学的属性そしてADL（Motor Functional Independence Measure: motor FIM）を診療記録より調査、またADLを測定し、それらを非再入院群と再入院群の2群間において比較検討した。その後北村氏は、コックス比例ハザードモデルを活用し、再入院因子として、motor FIMを抽出した。また、そのカットオフ値が74.5点であったことを示した。本研究結果から、高齢心不全患者におけるADLは90日以内再入院に関連すること、ADLのカットオフ値が再入院予測の一指標となることが明らかとなった。

本研究は、昨今、急増している高齢心不全患者の退院時ADLと再入院との関連に着目し検討を行ったという点において、今後の医療経済学的視点をも見据えた、高齢心不全患者に対する指導方策の一助として、新たな一石を投じるものである。

以上より、本論文の功績は大きく、学位申請者の北村匡大氏は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。

掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。

Kitamura M, Izawa KP, Taniue H, Mimura Y, Imamura K, Nagashima H, Brubaker PH. Relationship between Activities of Daily Living and Readmission within 90 Days in Hospitalized Elderly Patients with Heart Failure. Biomed Res Int. 2017;2017:7420738.